

KEY WORDS

定率減税

1999 年、当時の小渕内閣が中堅所得者の負担軽減と景気浮揚を目指して始めた「恒久的減税」の一つで、算出された税額から所得税の場合はその 20% (最高 25 万円)、住民税の場合はその 15% (最高 4 万円)を差し引く減税措置。今年、政府税制調査会が、段階的に廃止する答申を出した。その原因としては、財政赤字の縮減や社会保障財源への充当などが考えられる。実施されると、実質的な増税となり、平均的な家庭では年間約 18 万円の増税になると言われている。したがって、政府・自民党内には本格的な景気回復まで廃止は難しいとの意見が根強いが、現在、自民党税調も段階的廃止の方向で動いている。

コンプライアンス (Compliance)

一般的に「法令遵守」の意味で用いられ、法令や諸規則、企業倫理等、社会の様々なルールを守ることをいう。これが声高に言われるようになったのは、行政指導が今までの事前審査から事後検査へ変化したからであるが、反面、株主の有価証券報告書虚偽記載などの不祥事が起きている。企業の社会的な信頼を喪失し、企業業績に大きなダメージを与えたりすることから、昨今、「コンプライアンス」の充実・強化が求められており、各企業とも、会社全体として遵守するために、業務監査の強化や監査役の充実、社員教育などに力を入れている。

ブログ (BLOG)

ウェブログ (WEBLOG) の略で、記事を書き込むとどんどん最新の書き込みが更新されていくウェブサイトの記録のことをいう。一般の掲示板は、HTML 言語や CGI など、専門的な知識がないと使えないが、ブログは追記型のもので、自分だけが簡単に書き込めるため、パソコンやインターネットに対して不得意な中高年層などが、自分のホームページを公開するようになってきている。以前は個人の日記サイトが多く存在していたが、最近はニュースなどに、自分たちの考えやコメントを書き加えるものが主流となっている。また、この言葉は、アメリカのウェブスターという出版社から、今年のアメリカの流行語大賞に選ばれた。

電子マネー

現金や預金の前払いと引換えに入手する、モノを買ったり、サービスを受けることができる電子的データのこと。プリペイドカードのような使い方をするが、テレフォンカードなど、特定の目的に使われるプリペイドカードより使用範囲が広い。現在、ソニーなどが出資する会社 (ビットワレット) が運営する『Edy』が、最もたくさん使われており、現在ではコンビニを始め、スーパー、百貨店、アミューズメント業界など幅広い業界に導入され、2003 年 12 月にはショッピング利用件数が月間 160 万件を超えるまでになっている。

Opinion & Announcement

青年部研究集会が行われ、その際新潟県中越地震への義捐金を募ったところ、50,000 円もの義援金をいただきました。皆様に御礼申し上げます。

春の総会で TEN-UP ACTION 2004 を宣言して、半年以上が過ぎた。皆様の青年部ではどのような活動をされているだろうか？ 青年部員を取り巻く環境が厳しくなっており、人が集まらないなど、活動しづらい面もあるが、ぜひ青年部活動を続け、部員の輪を広げてほしい。今年 11 月、沖縄県に県連青年部が誕生した。新しく青年部が結成されることもあるのだから、既存の青年部にはぜひ、今までより活発な青年部活動を行っていただきたい。事務局もまた、今回行われた分科会の討論内容 (記事参照) を参考にして、活動を推進してほしい。その結果として、来年の春の総会で多くの会が表彰を受けていただけることを願い、今年度の残り 3 ヶ月余、皆様の活発な活動を期待している。

政府税制調査会の答申が 11 月 25 日に出て、これを受けて現在、自由民主党税制調査会や与党税制調査会で平成 17 年度税制改正の審議が行われている。政府税調の答申は増税一色であり、非常に厳しい状況である。こうした中、青色申告会としては、1. 事業主報酬制度の実現、2. 事業承継税制の創設、3. 消費税の簡易課税手続きの簡素化を中心に、税制改正の要望運動を行っている。いずれも簡単に実現する事柄ではないが、我々中小企業者にとって大切な事柄ばかりである。こういう要求が通ることは、中小企業者に希望をもたらすものである。ぜひ、これらの実現に向けて、我々青年部としても行動を起こしていただきたい。親会の税制改正要望運動に協力するとともに、将来この活動を引き継ぐための準備として、多少なりとも税制を勉強して、なぜ青色申告会がこれらの事柄を要望するのか、理解していただきたい。

青年部研究集会開催される



全青色青年部は11月19日、東京都千代田区大手町のKKRホテル東京において、青年部研究集会を開催した。

下田兼義青年部長の主催者代表挨拶の後、長谷部成昭 全青色組織委員長(山形県連会長)より、「青色申告会の組織と青年部に思うこと」というテーマで講演が行われ、参加者は熱心に聞き取った。講演後分科会が行われ、熱心な討論が行われた。

長谷部組織委員長 講演要旨

日本国は大変な赤字財政で厳しい。しかも赤字は増え続けており、このままでは国がつぶれてしまうのではないかとまで言われている。しかし、国民には全然危機感がない。このままでは、生きることすら大変になる。景気が回復したといっても、その恩恵は我々中小企業にまで及ばない。しかし、その中でも我々は生き延びていかなければならない。これをふまえてどうしたらよいか、皆さんで模索していただきたい。

さて、青色申告会には各地区毎に結成された青色申告会の連合体があり、税連(税務署単位)、県連(都道県単位)、ブロック連合会(国税局単位)、全青色という組織になっている。

青色申告会の結成は、まず東京から始まり、それが全国に波及していった。以前は、会活動の活発さで『東高西低』と言われ、北海道～東海ブロックの組織率が高く、中国～南九州の組織率が低いと言われていた。現在でも大阪国税局管内には、青色申告会はほとんどない。昔は東京都内の最先端の会ではオフコンによる指導を行うなど、地方ではなかなかでき

なかったのを記憶している。

現在はITの時代であり、技術の進歩が速くなっている。OA機器などもどんどん進歩しているので、やるべき時にやらないと、時代に取り残される。全青色で開発したブルーリターンAや事務管理システムも、開発費がかかったが、これにより全国の青色申告会で指導・相談の環境が整備されている。また、パソコンなどの普及により、『いつでもどこでも』仕事ができる時代になった。そういう会運営を行うには、若い人たちが動かなければならないし、様々な勉強をしてもらう必要がある。

全青色の事業活動基本方針は大きく4つに分かれる。税制政策活動の推進、指導相談活動の充実、組織運営の強化、事業活動の推進である。それぞれに対し、全青色、ブロック連合会・県連、地区会の活動と役割が書かれている。当面の重要課題は、消費税の問題である。課税最低限が下がったため課税事業者が増えた。課税期間が始まる前に、様々な指導が必要である。届出書の提出が一つ漏れてもトラブルになるので、今、事務局が必死になっている。ぜひ青年部にも応援をお願いしたい。

昨年、青色申告特別控除が55万円から65万円に拡大し、減税となった。財政が厳しくても、正しいと思うことを、信念を持って行動していくと、このように成果があげられる。今年も、事業主報酬制度の実現、承継税制の創設、消費税簡易課税制度における事前届出制の省略という3つを最重点に、税制改正要望意見を出している。ここ数年、我々の要望が実現しているが、活動の努力を続けているからである。これらが、今年通るかどうかはわからないが、未来に継続する運動にするためにも、青年部に期待したい。

店と奥を区別すること、すなわち給料をもらうことが企業のはじまりである。そして、企業は利益を追求しないといけない。企業は利益を出し、税金を納めるのが、最低の社会的義務である。赤字でいるのはもってのほかである。また、現代の経営に必要なものは、ヒト・モノ・カネ・情報の4つである。これらを使いこなさないと経営が成り立たない。それを皆さんは肝に銘じてほしい。

ところで、青年部のみなさんは、給料をたくさんもら

っていますか。みなさんは人よりも働いているのだから給料をたくさんもらうべきだと、私は思う。一生懸命働いてたくさん稼ぎ、そのお金で事業を発展させて欲しい。

二世後継者の風評はボンボンで、わがままで力がなく、バカで働かない、といった悪評が多い。三代たつと倒産ということになってしまう。実際、地元の商店街を調べても事業を続けているのは20%程度である。不思議なのは、養子をとったところは生き残っている。これは、いい人材を残すからだと思う。『金を残すは下なり、モノを残すは中なり、人を残すは上なり』という言葉があるが、いい人材を育てる教育が、今の日本にはない。皆さんには、血縁・地縁・職場の縁を大切に、よい経営者になってもらいたい。

青年部に期待することとして、『目標を作ってほしい』ということがある。人生において、目標がないことほどバカバカしいことはない。自分に合った目標を立て、自信を持って実行することが大切である。仕事は、その人の知識を超えることはできないと思う。これでいい、と思った時点で、その人の仕事はそこまでだと思う。だからこそ、勉強をしなければならない。勉強をしていけば、いつかは開花すると思うし、そうなってほしい。

このあと、質疑応答を行った。

Q1 組織力のアップには、優秀な事務局と役員との連携が一番大切だとのお話だが、実際のところ、青年部は女性部の半分ぐらいの組織しかない。これをアップさせる取り組みをどう考えているか？

A1 県連に働きかけて、県下各会に呼びかける必要があると思う。そのためには、事務局にどのくらい職員がいるかを見る必要がある。いないところについては、役員が動くしかないが、役員が動くのには限度がある。だから、併設会の場合、職員を動かしていくよう努力する、それでも駄目なら、親会の役員力を借りて、自ら働きかけを行って欲しい。

Q2 青色申告会ができてもう50年以上経つが、いまだに大阪に組織がないのはおかしいと思う。大阪に作るのが難しいとのことだが、どのようにしようとしているのか。

A2 納税協会という別の組織があるためだが、大阪にもいくつか会がある。大阪国税局内各地に、青色申告会を地道に作っていくことが大切だと思う。これからも継続していきたい。



分科会 要旨

講演終了後、分科会を開催した。テーマは、次の5つである。

『TEN-UP ACTION を考える』

『青年部の税制改正要望意見を考える』

『ブルーリターンAの活用を考える』

『活発な部運営を考える』

『青色申告会の未来を考える』

各グループ6~7名で、75分程度の討論を行った。以下は各グループより提出されたレポートをまとめたものである。

『TEN-UP ACTION を考える』

- 部員増強を進めるための方策は -

青色申告会の世代交代がうまくいかない、後継者育成の環境がないなど多くの問題点があげられ、それに対し、青年部卒業者を対象にし親会との間の新しい組織の設立、魅力ある青年部とその活動をアピールする機会を作る、といった意見が出た。

【問題点】

- ・青年部に出席する人がいつも一緒
- ・青色申告会、あるいは青年部に魅力がない
- ・世代交代がうまくいっていない
- ・後継者育成(リーダー育成)の環境がない
- ・助成金に頼っている
- ・異業種対応の配慮がない

【解決策】

- ・レクリエーションや面白い勉強会等で活性化を図る
- ・商工会など、他団体との交流を行う
- ・どう活発な活動を行うべきか？やはり、魅力ある活動が必要
- ・親会のバックアップ、改善への参画も行うべき

- ・青年部卒業者を対象にした新しい組織の設立
- ・魅力ある青年部と活動をアピールする機会を作る
- ・ある程度強力な部員勧誘
- ・事務局による入部勧奨や青年部対象者リストの提供
- ・チラシ等を活用して青年部の認識を高める

『青年部の税制改正要望意見を考える』

- 活力ある未来を創るためどのような税制を目指すのか -

少子高齢化、財政の悪化、価値観の多様化といった社会変化、また直間比率の見直しなど税制の変化の中、承継税制や事業主報酬を実現するために青年部は何をすべきか。これから青年部としても、理事会でじっくり討議し、さらに例えば教育ローン控除の創設などの青年部らしい意見を、親会の税制委員会に出して、それらを反映するよう働きかける、といった意見が出た。

【問題点】

- ・少子高齢化・財政の悪化・価値観などの多様化など、社会構造の変化
- ・消費税と所得税といった直間比率の見直しなど、税制の変化

【解決策】

- ・商売の活性化をするために、承継税制、事業主報酬を実現しなければならない
- ・青年部理事会で税制の討議をじっくり行い、親会の税制委員会で、親会にない、青年部らしい意見を出して、反映してもらうよう働きかける

『ブルーリターンAの活用を考える』

- O A化・電子申告にどう対応するか -

ブルーリターンAが初心者にはやさしいソフトであるが、事務局のフォローが不十分である、パソコンの慣れと複式簿記の理解度によって普及の度合いが違う、といった指摘があり、それに対し、会主催のパソコンや複式簿記に関する講習会に対し、青年部としてサポートや講師として参加していく、また使いやすさを追究するため、青年部としてバージョンアップの要望を出していく、という意見が出た。

【問題点】

- ・ブルーリターンAを使ってもらうために、どうするか
- ・ブルーリターンAは、画面が見やすく使いやすい。初心者最適だと思う
- ・価格に問題がある
- ・事務局のフォローに問題がある
- ・使いやすく、3年間としては価格も適当だと思う

- ・A3プリンターでは個人では対応が無理である
- ・入力時の伝票番号や修正記録が残る現在の形を、他の会計ソフト同様の形にしてほしい
- ・会計ソフト導入前に、複式簿記を理解することが先決である
- ・電子申告については意見が分かれる
- ・つまるところ、パソコンにどこまで慣れているかと複式簿記をどのくらい理解しているかによって、普及の度合いが違う
- ・パソコンの知識・活用・指導の熱意が足りない
- ・青年部からソフト開発委員が入っていないため、ソフトの開発過程が分からない
- ・事務局の対応の能力に差がある

【解決策】

- ・パソコンの基礎知識・複式簿記に関する知識が不足しているのが現状なので、まず導入の段階でパソコンや複式簿記に関する講習会を実施し、青年部として、親会の講習会にサポートや講師として参加する
- ・弥生会計の方が多いい会もあるが、いずれにしてもパソコンや複式簿記の説明からはじめなくてはならないので、こういう講習会の時にPRをしていく
- ・他社のソフトより、ブルーリターンAの方が事務局でも対応できるので、ここに青年部としても指導的役割を果たす
- ・まず複式簿記を多少なりとも理解してもらう
- ・その上で操作の簡単なブルーリターンAを勧める
- ・青年部が積極的に働きかけることが必要
- ・開発に若い人材を登用し、併せて青年部からも開発委員を出すこと、そしてソフトの開発過程を開示することが必要
- ・事務局全員がブルーリターンAを指導できるように研修を行い、職員のレベルを一定に保つことが必要

『活発な部運営を考える』

- 停滞した活動を活性化する方策、イベントは何か -

青年部活動のマンネリ化、部員の部活動への参加が少ない、部員が自身の事業で手一杯であるといった現状に対し、楽しく参加しやすい雰囲気を作る、例えば講演会のように、部員が興味を持ち、部員の利益になるような部活動をする、とともに、部員一人一人が信念を持って地道に青年部活動をする必要がある、知名度を高めるため、地域との交流を積極的に図る、といった意見が出た。

【問題点】

- ・青年部活動のマンネリ化
- ・青年部の組織運営ができない
- ・部員数が少なく、満足な活動ができない
- ・『青色申告会』という名前が硬いイメージを与える
- ・そもそも『青色申告会』の知名度がなく、何をしているか分かってもらえない
- ・部員は参加したいが、その時間が取れない
- ・景気が悪くなり、青年部としての活動も停滞気味
- ・青年部の事業自体が活発でない
- ・不景気のため自分の事業で忙しく、青年部にまで時間が回らない
- ・青年部の部員自体は多いが、実際の参加者が非常に少ない、集まりが悪い

【解決策】

- ・青年部間で姉妹関係を結ぶ
- ・他の部会や他団体と交流をしていく
- ・部員一人一人が信念を持って地道に活動を続ける
- ・青年部役員自身のモチベーションをアップする
- ・青年部活動に誇りややりがいを感じるようにする。そういう気持ちが青年部活動を活発にする
- ・現在いる青年部員の参加率を上げるために、楽しく参加しやすい雰囲気を作る
- ・知名度アップのため、地域との交流の場を持つ
- ・行事の中で、事務局が潤滑油の役割を果たし、親会・女性部・青年部の間で役割を持たなければならない
- ・部員が講師となって講習会を開く
- ・親会などとの懇親を深める
- ・著名な方の講演会を開く
- ・個人事業者の利益を確保するためのアドバイスを、部員間でできるようにする

『青色申告会の未来を考える』

- 青年部世代は未来の青色申告運動をどう考えるか -

併設会が多いため会の強化ができない、21世紀の青色申告会のビジョンがない、部員や会員が不景気のため、自分の事業に手一杯で出席の無理強いができない、という中、会員一人一人とのコミュニケーションを大切に、入部・入会を勧める、青色申告会が社会的に必要であることがわかるものを提示する必要がある、といった意見が出た。

【問題点】

- ・各個人の商売があつての青色申告会であるから、

部活動出席の無理強いは出来ない

- ・併設会が全国的に多く、その強化が難しい
- ・21世紀への青色申告会としてのビジョンがない
- ・社会一般の方々が認知してくれる青色申告会の必要性がわかるビジョンを示す必要がある

【解決策】

- ・青年部員を一本釣りする必要がある
- ・会員一人一人と話し合いをし、入部を勧める
- ・仲間意識の中で輪をつなぐ
- ・親会役員に青年部出身者が多い会もあるので、そういう方向に持っていけば、未来があると思う
- ・併設会の独立会への移行を進める
- ・単会の合併・統合による社団化を進める
- ・全青色がイニシアティブを取ってこれらを進める
- ・ビジョンを多くの方が議論して作成し、責任を明確にする。そして、実行する。

最後に、群馬県連 山田裕史青年部長が以下の総括を行い終了した。

今日は、5つのテーマで、いい形で小グループごとに話し合うことが出来たと思う。

我々青年部は、話し合うことは非常に大切であるが、行動することはもっと大切である。ぜひ、地元に戻ったら、自分は何ができるか、ということから考えていただき、一步でも、いや半歩でもいいから、行動に移していただきたい。

どの会でも、年間の行動計画を立てる。これがすべて出来るのなら、どの会もすばらしい会になっているのだが、なかなかそうならない。組織が仕事をする場合は、期日・責任者・予算などを決めて仕事をする。青色申告会もそのように動くはずだが、もしそのように動かないのなら、組織として成り立たない。青年部もそうである。具体的に何をいつまでに行うかの計画を立てて、それに向かって行動しなければならない。それができていないのは、そこに参画している人々が、『会を良くしよう』という意識を持って動いていないからである。

現在は競争の時代であり、青年部も例外ではない。他の青色申告会青年部や他団体青年部との競争がおきている。だから、青年部に魅力がなくなれば、淘汰され消滅してしまう。そうならないためにも、我々は明日からすぐ、できることから行動に移していただきたい。



事務局 〒711-0913 岡山県倉敷市児島味野
1-4-23 児島商工会議所内
TEL. 086-472-4450 FAX. 086-474-3506

青年部長 横佐古 良男
事務局担当 高木 光博
発足:平成 14年 11月 6日 部員:40名
予算:助成金 50万円

《現役員》

部長 横佐古 良男 (豊製造業)
副部長 横田 正生 (税理士)
三村 芳孝 (菓子製造業)

《地元概況》

児島は瀬戸内海国立公園の中心に位置し、鷲羽山、王子が岳など風光明媚な名勝があり、気候もとても温暖です。

古くから海上交通で栄え、塩づくりや繊維を中心に地場産業が発達して、今日があります。

現在では、学生服・ジーンズ・ユニフォーム・作業服・畳縁等の繊維産業に関する企業(擦糸業・織物業・染色業・裁断業・縫製業・仕上げ加工業等)が集積しています。

観光の方は、鷲羽山を中心とした瀬戸内海の多島美と瀬戸大橋の架かる街、そして瀬戸内のおいしい魚をもとめて、毎年多くの観光客が訪れています。

現在では、鉄道と高速道路が走る流通の要衝として、瀬戸大橋の『児島・坂出ルート』の本州側の入り口であり、岡山県の南の玄関口として児島は発展しています。岡山県に来られる際は、岡山の後楽園、倉敷の美観地区、そして児島の素晴らしい景色をご鑑賞いただき、おいしい魚をご賞味ください。

「いっぺん、児島に、きてみられー」(岡山弁です)。標準語で言うと、「一度、児島に、来てください。」

《青年部の活動》

児島青色申告会青年部は、毎月1回役員によるス

タッフ会議の開催と毎月1回の事業を行っています。

スタッフ会議で2～3ヵ月先の事業を計画し、実行しています。事業の内容は、ブルーリターンAを使用した「パソコン会計講習会」の開催、青年部メンバーの税理士による「消費税セミナー」、同メンバーのファイナンシャルプランナーによる「助成金セミナー」等、社会保険労務士による「社会保険・年金セミナー」、国民生活金融公庫の「金融セミナー」等、必ずしも税にこだわらず、経営上必要と思われるセミナーを開催しています。



青年部メンバーの親睦を図る事業として、研修旅行や忘年会を実施しています。平成16年度は、神戸のグリコの工場見学と垂水のアウトレットの見学を計画しています。忘年会では、職業柄、普段は硬い口調の人も、当青年部の気さくな雰囲気では会話も進み、午前様になる事もしばしば…。当青年部は、他地区の青年部との交流も積極的に行っており、岡山東会青年部と年1回、交流会を開催しています。

児島青色申告会の1番の特徴は、青年部のメンバー40人中14人が女性である事です。スタッフ会議や各種セミナーに積極的に参加し、女性にしかできない細やかな気配りと発言で、当青年部の運営や会議、セミナーをなごやかな雰囲気にしてきています。

青年部メンバーの募集は、記帳指導等、事務所に来所される方は、事務局で青年部活動を説明し、確定申告期間に設置される「青申コーナー」を訪れる方に対し、当青年部のメンバーが青年部活動を説明し、入部勧奨をしています。

《終わりに》

出来てまだ日が浅い、児島青色申告会青年部です。「よく学び、よく遊べ」をモットーに、何事にも積極的に参加し、今後の青年部の活動を展開して行きたいと思っています。